

令和5年度第1回 浜松市障がい者自立支援協議会市全体会議録

1 開催日時 令和5年10月23日(月) 午前9時30分から11時30分

2 開催場所 浜松市役所 北館 101、102会議室
(Zoomを使ったオンラインを併用)

3 出席状況

所属		氏名	備考
聖隷クリストファー大学 社会福祉学部		川向 雅弘	
メンタルクリニックダダ		大嶋 正浩	
相談支援センターだんだん		川嶋 章記	
浜松市浜松手をつなぐ育成会		小出 隆司	
浜松市社会福祉協議会 地域支援課		宇佐美 嘉康	
浜松市立豊西小学校		田中 公子	
社会福祉法人 天竜厚生会		富永 直樹	
社会福祉法人 みどりの樹		海野 洋一郎	
浜松市発達医療総合福祉センター		太田 裕子	
浜松市根洗学園		松本 知子	
庁内出席者	学校教育部教育支援課 課長補佐	南瀬 悦司	
	中区社会福祉課 課長	横井 通文	
	東区社会福祉課 課長	鈴木 誠隆	
	西区社会福祉課 課長	夏目 健一	
	南区社会福祉課 課長	鈴木 孝人	
	北区社会福祉課 課長	山本 隆久	
	浜北区社会福祉 課長	伊藤 弘和	
	天竜区社会福祉課 課長	榊原 克人	
事務局	中障がい者相談支援センター センター長	藤川 晴海	
	東障がい者相談支援センター センター長	平野 明臣	
	西・南障がい者相談支援センター センター長	後藤 翔一朗	
	北障がい者相談支援センター センター長	本宮 早奈映	
	浜北・天竜障がい者相談支援センター センター長	大柳豆 勇太	
	相談支援事業所シグナル 所長	尾関 ゆかり	

相談支援事業所シグナル	阿部 祥美	
障がい者基幹相談支援センター	雨宮 寛	
障がい者基幹相談支援センター	山下 由佳	
障がい者基幹相談支援センター	玉澤 卓也	
障がい者基幹相談支援センター	大軒 優一	
障がい者基幹相談支援センター	玉木 祐次郎	
障害保健福祉課 課長	久保田 尚宏	
障害保健福祉課 担当課長	稲葉 友亮	
障害保健福祉課 課長補佐	金原 正剛	欠席
障害保健福祉課 精神保健グループ長	河合 龍紀	
障害保健福祉課 指導・請求審査グループ長	大庭 靖史	
障害保健福祉課 総務調整グループ長	宮本 健一郎	
障害保健福祉課 手当助成グループ長	岡田 佳久	
障害保健福祉課 生活・就労支援グループ長	柴田 多美子	
障害保健福祉課 生活・就労支援グループ	青柳 聖弥	

4 傍聴者 51名

5 議事内容

- (1) 第4次浜松市障がい者計画（案）について
第7期浜松市障がい福祉実施計画及び第3期障がい児福祉実施計画（案）について
- (2) エリア連絡会活動状況報告
- (3) 専門部会活動状況報告
- (4) 地域生活支援拠点等検証委員会について
- (5) 日中サービス支援型グループホームの評価について
- (6) その他

6 会議録作成者 障害保健福祉課生活・就労支援グループ 青柳

7 記録の方法 発言者の要点記録 録音の有無 無

8 会議記録

(1) 第4次浜松市障がい者計画(案)について

第7期浜松市障がい福祉実施計画及び第3期障がい児福祉実施計画(案)について
(資料を元に説明)

<意見>

(大嶋委員)

・個々に意見聴取してもらえるのはありがたいが混乱もあると思われるため、団体でこの分野についてどうすべきかしっかりと市全体のことを考えているところとの協議を、パブリックコメントの前にしてもらいたい。

(小出委員)

・基本目標『自己決定と自己選択の尊重』について、知的障がいの場合は物事を考え自ら発言することが難しい。障がいの種別によって必要な支援があることを見てもらいたい。

(富永委員)

・重点施策の取り組み『1 差別の解消・権利擁護の推進 ①障がいを理由とする差別の解消の推進』について、具体的な取り組みを検討しているか。

⇒(事務局)パンフレットの作成、パンフレットを活用した啓発活動の実施、市職員向けの差別解消に関する研修会の実施、学校や各団体への普及啓発活動を引き続き進めていく。

(富永委員)

・障がい者計画は福祉に携わる者の間では周知されているが、それ以外の分野では知られていない。合理的配慮について民間企業でも取り組みが必要になることから、これを機会に啓発していけると良い。

(松本委員)

・幼稚園や保育園とインクルーシブな状況の中で福祉サービスを利用する子どもが増えていくと思われる。本計画が子どもの分野にどのように影響していくのか、子ども家庭庁が出来たところで、どのように連携していこうと考えているか。

⇒(事務局)重点施策の取り組み『5 関係機関と連携した子どもと家庭に対する支援体制の強化』において、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行うため、関係機関と連携を図り実施していきたいと考えている。

(2) エリア連絡会活動報告(資料を元に報告)

<意見>

(海野委員)

・エリア連絡会につながった個別支援会議の件数について、スタンダードな連絡会へのつながり方を教えてもらいたい。

⇒(事務局)地域課題としてエリア連絡会で取り扱っている会議の件数を挙げている。共同支援会議の開催に至らず、今地域にある社会資源や支援体制で支えることが出来ている

事例は多々ある。機能強化的な役割として計画相談を始め地域の事業所から相談があった場合には各エリアの相談支援センターが対応しており、共同支援加算のスキームを踏まえた支援も促していけると良いと考えている。

(海野委員)

・個別の支援を検討する会議はいろいろなあり方があり、そこからエリア連絡会として受け止めた件数ということだと理解した。件数の検証はどのようにしていくのか。

⇒(事務局) 個別支援から見えてきた課題をエリア連絡会につなげていくことを意識するというねらいで件数を挙げている。

(川嶋委員)

・どのエリア連絡会も良い取り組みを実践している。西南エリア連絡会の取り組みについて、浜松市で考えると障害者就業・生活支援センターの負担感が大きいと感じている。その上で今後モデルケースに取り組み視点の共有を図るということであれば、就労移行支援事業所等一般就労に向けた支援をする障害福祉サービス事業所と障害者就業・生活支援センターや計画相談、障がい者相談支援センター等が共有できる浜松市独自の連携フローがあると良い。今後障害者雇用が進むことが想定されている中で離職者の増加も懸念される場所である。

(3) 専門部会活動状況報告 (資料を元に報告)

こども部会

<意見>

・特になし。

生活部会強度行動障害支援ワーキング

<意見>

(小出委員)

・北エリア連絡会の取り組みについて、強度行動障害は環境によってつくられる障がいであると認識しており、予防的な取り組みは実施されているのか。また、ワーキングで障害福祉サービス事業所に実態把握調査を実施したとのことだが、学校教育の現場ではどうなっているのか。

⇒(事務局) 予防的な視点については、北エリア連絡会で取り組みを開始する際にも話題に挙がっていたところである。前年度から今年度にかけては、今困っているところにスポットを当て、少しでもご本人が過ごしやすくするということでの検討と、ネットワークづくりの重要性も感じており、学校を含めた様々な支援機関に参加してもらいながら取り組んでいる。学校については、北エリア連絡会の取り組みにワーキングメンバーに特別支援学校校長に参加してもらっており、実態調査結果から学校との見立ての違いや学校でとらえている部分についての協議をしているところである。また、障がい者基

幹相談支援センター事業として、特別支援学校高等部の先生方と相談支援機関との意見交換会を開催し、年2回進路状況調査を実施しており、その中で強度行動障害のある生徒の現状や目指す進路等について把握している。本ワーキングとの連動はまだ出来ていないが、今回実施した実態調査結果とのすり合わせ等を実施していきたい。

□就労部会就労アセスメントワーキング

<意見>

(小出委員)

- ・就労定着支援について、特別支援学校を卒業後企業へ就職した者は就労定着支援を受けることが出来ない。浜松市独自の制度として企業へ就労した人に対しても就労定着支援が使えるような仕組みを検討してもらいたい。

(4) 地域生活支援拠点等検証委員会について (資料を元に報告)

<意見>

- ・特になし。

(5) 日中サービス支援型グループホームの評価について (資料を元に報告)

<意見>

(川向委員)

- ・今回の変更について、エリア連絡会での取り組みではどうか。

⇒ (事務局) 1年で実施するのはスパンとして短いと実感していた。今回の変更でより良い意見交換が実施できると考えている。

(6) その他

①精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム推進連絡会 (資料を元に説明)

②医療的ケア児等支援協議会 (資料を元に説明)

<意見>

(川向委員)

- ・医療的ケア児の災害時の取り組みについて、中山間地域のある浜北天竜エリア連絡会で意見は挙がっているか。

⇒ (事務局) 土砂災害が発生すると道路が寸断されてしまい、支援に入ることが難しい地域があり、行政機関と連携して対応している。医療的ケア児等支援協議会災害ワーキングで天竜区在住の方についても検討しており、全市的な取り組みを踏まえつつエリア連絡会として取り組めるところについても積極的に検討していきたい。

③その他意見等

(富永委員)

・浜松市障がい者計画及び実施計画について、前期の達成状況について確認したい。
⇒(事務局)浜松市障がい者施策推進協議会等には報告して検証しているところであり、今回報告出来ず申し訳ありません。後ほど報告をいたします。

(富永委員)

・市全体としてどんな取り組みがされているのか、そのプロセスや成果等知りたい。良い取り組みがあっても周知されないと市全体には広がらない。オール浜松で取り組んでいくために共有していけると良い。

(小出委員)

・障がい者計画及び実施計画は、実際に利用する障害福祉サービスと直結しており、当事者団体としては、常に進捗状況に関心を持ち、地域に偏在している障害福祉サービスの検討等にも取り組んでいる。事業所にも計画数値等を把握しながら事業を運営してもらいたい。

(小出委員)

・グループホームについて、現在問題になっている食材費水増し徴収に関連して制度の見直しが検討されている。第4次浜松市障がい者計画『重点施策の取り組み 2相談支援体制の整備ときめ細かな相談支援の充実 ④浜松市障がい者自立支援協議会の効果的な運営』が挙げられており、浜松市で同様の問題が起こらないよう自立支援協議会の役割として取り組んでもらいたい。

(大嶋委員)

・障がい者計画及び実施計画について、強度行動障害は幼少期からの家庭状況や学校の在り様が非常に大きく影響しており、予防という観点を障がい者計画に入れてもらいたい。不登校児童のケース検討をアセスメントツールを用いて実施しており、驚くのは多くに発達のアンバランスが見られる。発達のアンバランスがある状況に対して不適切な環境が加わると障害福祉の支援が必要になる子どもが増えてしまう。予防的な観点も視野に入れてもらいたいし、そういった子どもたちがどうしたら社会に出やすくなるか、思春期や就労の当たりの視点も入れてもらいたいので、現場や団体とのコミュニケーションを密にしてもらいたい。

(太田委員)

・子どもを取り巻く環境において、浜松市には多くの児童発達支援事業所があり、個別支援が必要な子どもへの支援が提供されていると感じる一方で、地域の園を訪問すると「障がいのある子どもは児童発達支援事業所で支援してもらえば良いのではないか。」といったところがあるように感じる。成人の支援では地域で生活することの大切さが言われている中で、子どもの支援においてもインクルーシブという視点で取り組みを検討していきたい。